

英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	前期火曜日1講時	
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	文学研究科教官	4	後期火曜日1講時	
英語学基礎講読	形態論入門	2	島 越郎	3	前期火曜日4講時	
英語学基礎講読	英語学入門	2	文学研究科教官	4	後期火曜日4講時	
英語学各論	極小主義プログラムを めぐる諸問題	2	小畑 美貴	集中	集中講義	
英語学講読	意味論入門	2	島 越郎	5	前期金曜日1講時	
英語学講読	英語学の基本概念	2	文学研究科教官	6	後期金曜日1講時	
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅠ	2	島 越郎	5	前期水曜日4講時	
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅡ	2	文学研究科教官	6	後期水曜日4講時	
英語学演習	英語学の諸問題研究 Ⅰ	2	島 越郎	7	前期水曜日2講時	
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	文学研究科教官.島 越郎	8	後期水曜日2講時	

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB32102, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 I
2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax I
3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらおう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらおう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is an introduction to the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.
5. 学修の到達目標：1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：導入
第2回：英語の普遍性と特殊性
第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
第4回：英語音声の基本的特徴
第5回：英語の綴り字と発音
第6回：英語のリズムとイントネーション
第7回：文をつくる規則：句構造規則
第8回：句構造規則と文法
第9回：構成素について
第10回：樹形図と構造関係
第11回：構造関係に基づく文法原理
第12回：文、樹形図、文法原理の関係
第13回：品詞と歴史的变化
第14回：語彙と意味の歴史的变化
第15回：まとめと期末試験
8. 成績評価方法：
副読本の内容確認テストと期末テストの合計点
9. 教科書および参考書：
毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：文学研究科教員

コード：LB42102, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is a continuation of Introduction of English Syntax I, focusing on the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学修の到達目標：1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。

2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。

3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則から X バー理論へ

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB32401, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：形態論入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology
3. 授業の目的と概要：単語の基本的な形態現象を扱う形態論がどの様にして発展してきたのかについて解説した文献を読むことにより、形態論の基本的な考え方について学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces the nature and structure of words, by reading a textbook that shows how morphological theories have been developed in the earliest models of generative grammar.
5. 学修の到達目標：1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
2) 形態論の基本概念を理解する。
3) 形態論の基本的分析法を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand the basic concept of morphology and acquire basic analytical skills.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Introduction
 - 2) The Standard Theory
 - 3) The SPE model of phonology
 - 4) Morphosyntax in the Standard Theory
 - 5) Generative Semantics and Lexical transformations
 - 6) Lexical decomposition
 - 7) Chomsky (1970)'s approach (1): Lexicalism
 - 8) Chomsky (1970)'s approach (2) :X-bar syntax
 - 9) Halle's (1973) approach (1): Word Formation Rules
 - 10) Halle's (1973) approach (2): the phonological conditioning of morphological rules
 - 11) Siegel's (1979) approach: the level ordering hypothesis
 - 12) Aronoff (1976)' approach (1): word-based morphology
 - 13) Aronoff (1976)' approach (2): allomorphy rules
 - 14) Aronoff (1976)' approach (3) : morpheme and meaning
 - 15) Summary
8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。
9. 教科書および参考書：

開校時にプリントを配布する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：文学研究科教官

コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Linguistics

3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、英語の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and understand the basic concepts of English linguistics, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学修の到達目標：①英語学の思考法や研究方法論を理解する

②正確に英文を読む力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand fundamental perspectives and basic notions of English linguistics and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当学生による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：導入

第3回：文法記述における論証の重要性

第4回：論証の一般原理(1)：帰納と演繹

第5回：論証の一般原理(2)：簡潔性

第6回：簡潔性に基づく論証(1)：名詞と代名詞は同一の範疇か(1)：異なる範疇とする根拠

第7回：簡潔性に基づく論証(2)：名詞と代名詞は同一の範疇か(2)：同一の範疇とする根拠

第8回：簡潔性に基づく論証(3)：動名詞という概念の必要性

第9回：簡潔性に基づく論証(4)：前置詞と従属接続詞の区別(1)：前置詞の自他用法

第10回：簡潔性に基づく論証(5)：前置詞と従属接続詞の区別(2)：従属接続詞と前置詞の類似性

第11回：簡潔性に基づく論証(6)：形容詞と決定詞は同一の範疇か(1)：分布状の類似点

第12回：簡潔性に基づく論証(7)：形容詞と決定詞は同一の範疇か(2)：分布状の相違点

第13回：簡潔性に基づく論証(8)：形容詞と決定詞は同一の範疇か(3)：精緻化

第14回：構成素性：移動と代用表現

第15回：まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表とディスカッションへの参加 [40%] と期末レポート [60%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Aarts, Bas (2020) "Syntactic Argumentation," in The Oxford Handbook of English Grammar, ed. by Bas Aarts, Jill Bowie and Gergana Popova, pp. 21-39, Oxford University Press. プリント使用。

10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し不明な点を解消するとともに、授業の中で指示する参考書等を活用して問題点について理解を深める (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

semester：集中 単位数：2

担当教員：小畑 美貴

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-LIN301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：極小主義プログラムをめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Some problems in the minimalist program: parameters, agreement and labeling

3. 授業の目的と概要：生成文法理論では、人間言語の文生成のメカニズムを明らかにすることを目指しているが、Chomsky (1995)以降広く採用されている極小主義プログラム(minimalist program)の下では、統語部門における言語演算を極限まで単純化する可能性を追求している。その一方で、単純化された演算によって、多様な振る舞いが観察される言語データを生成するには、克服すべき問題が多くあるのも現実である。例えば、個別言語ごとの違いをどのように扱うか、要素間の一致関係をどのように捉えるか、併合によって形成された集合に「ラベル付け」する必要はないのか等の問題が挙げられる。この授業では、これらの問いを中心に検討し、英語や日本語だけでなく、バンツー系言語やクレオール言語など、多様な言語データにより、極小主義プログラムの経験的妥当性を多角的に検証する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The theory of generative grammar aims to elucidate how linguistic computation works to generate grammatical sentences in human languages. The minimalist program, which has been widely assumed since Chomsky (1995), pursues the possibility of simplifying linguistic computation in the narrow syntax to its limits. On the other hand, the simplified computation still needs to generate a variety of linguistic data to achieve empirical adequacy. In this course, we consider the tension the minimalist program faces and specifically focus on the issues of parameters, agreement and labeling. We examine those issues by closely looking at various kinds of data from Bantu and creole languages as well as from English and Japanese.

5. 学修の到達目標：本講義の目標は、既存の言語理論を批判的に検討することで適切に評価し、理論の更なる進展の為にはどのような解決すべき問題があるのかを理解することにある。また、抽象度の高い言語理論を実際の言語データによってどのように検証し、どのように理論の進展に貢献するか、理論研究の手法を学ぶことにある。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to evaluate existing linguistic theories properly by critically considering them and to understand what problems need to be overcome for further theoretical development. Also, students are expected to learn the research methods--how linguistic data at hand can be utilized to examine highly theoretical issues and also how their research makes a theoretical contribution.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. シラバスの説明

極小主義プログラムの取り組み

(Chomsky 2005, 2013, Epstein, Kitahara and Seely 2015)

2. パラメーター(1)

極小主義プログラムにおけるパラメーターの扱い

(Richards 2008, Obata, Epstein and Baptista 2015 Section 1, Chomsky 2017)

3. パラメーター(2)

パラメーターの経験的問題

(Duguine, Irurtzun and Boeckx 2017)

4. パラメーター(3)

極小主義プログラムにおける個別言語間差異

事例研究①：Wh 疑問文、T による一致

(Obata, Epstein and Baptista 2015, Section 2-6)

5. パラメーター(4)

極小主義プログラムにおける個別言語間差異

事例研究②：T-to-C 移動

(Obata and Epstein 2016, Epstein, Obata and Seely 2017)

6. 一致関係(1)

Probe-goal による一致の問題点

(Chomsky 2000, Kato et al. 2014, Kato et al. 2016)

7. 一致関係(2)

事例研究：感嘆文と非対称的一致について

(Obata and Baptista 2021, Obata and Morita 2019)

8. 一致関係(3)

最小探査による一致関係の構築

(Epstein, Kitahara and Seely 2020)

9. ラベルとCI インターフェイス(1)

最小探査によるラベル付けとその問題点

(Chomsky 2013, Obata 2015, 2018)

10. ラベルと CI インターフェイス (2)
ラベルと連続循環的移動
(Epstein, Kitahara and Seely 2014)
11. ラベルと CI インターフェイス (3)
日本語におけるラベル付けの問題
(Saito 2016, 2018)
12. ラベルと CI インターフェイス (4)
事例研究：日本語分裂文における主格制限
(Takano 2015, Obata and Nakao 2021, to appear)
13. ラベルと SM インターフェイス (1)
SM インターフェイスにおけるラベルの役割
(Takita 2019)
14. ラベルと SM インターフェイス (2)
事例研究：英語 go get 構文と日本語 N+N 複合語
(Sugimura and Obata 2021)
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

1. レポート
2. 授業での議論への積極的な参加

9. 教科書および参考書：

Registered students are required to read papers in a reading list in advance.

10. 授業時間外学習：リーディングリストにある論文を予習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

講義で扱う予定の論考の一部を以下に提示する。

(状況に応じて変更・追加の可能性あり)

- Chomsky, N. (2000) Minimalist Inquiries: The Framework, Step by Step, ed. by R. Martin, D. Michaels and J. Uriagereka, 89-155, MIT Press, Cambridge.
- Chomsky, N. (2005) Three factors in language design. *Linguistic Inquiry* 36: 1-22.
- Chomsky, N. (2013). Problems of projection. *Lingua* 130:33-49.
- Chomsky, N. (2015). Problems of projection: Extensions. In *Structures, strategies and beyond: Studies in honour of Adriana Belletti*, ed. Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini, 3-16. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Chomsky, N. (2017) Notes on Parameters. *Linguistic Analysis* 41: 475-480.
- Duguine, M., A. Irurtzun and C. Boeckx (2017) Linguistic Diversity and Granularity: Two Case-Studies Against Parametric Approaches. *Linguistic Analysis* 41: 391-408.
- Epstein, S. D., H. Kitahara and T. D. Seely (2014) Labeling by Minimal Search: Implications for Successive-Cyclic A-Movement and the Conception of the Postulate Phase. *Linguistic Inquiry* 45: 463-481.
- Epstein, S. D., H. Kitahara, and T. D. Seely (2015) From Aspects ‘daughterless mothers’ (aka delta nodes) to POP’ s ‘motherless’ -sets (aka non-projection): a selective history of the evolution of Simplest Merge. In D. Ott and A. Gallego (eds.). *50 Years Later: Reflections on Chomsky’ s Aspects*, 99-112, MITWPL.
- Epstein, S. D., H. Kitahara and T. D. Seely (2020) Unifying Labeling under Minimal Search in “Single-” and “Multiple-Specifier” Configurations. *Coyote Papers Volume 22: the conference proceedings for Arizona Linguistics Circle* 13.
- Epstein, S. D., M. Obata and T. D. Seely (2015) Is Linguistic Variation Entirely Linguistic? *Linguistic Analysis* 41: 481-516.
- Kato, T., M. Kuno, H. Narita, M. Zushi, and N. Fukui (2014) Generalized Search and Cyclic Derivation by Phase: A Preliminary Study. *Sophia Linguistica* 61: 203-220.
- Kato, T., H. Narita, H. Kasai, M. Zushi and N. Fukui (2016) On the Primitive Operations of Syntax. In Koji Fujita and Cedric Boeckx (eds.), *Advances in Biolinguistics: The Human Language Faculty and Its Biological Basis*, 29-45. Routledge.
- Obata, M. (2015) Unlabeled Syntactic Objects and their Interpretation at the interfaces. *Proceedings of the 46th North East Linguistics Society (NELS46)* 3: 63-70. GLSA Publications.
- Obata, M. (2018) Syntax and its Interface: How are Labels Determined? *Proceedings of the Korean Association of Language Sciences 2018 Winter Conference*: 3-13.
- Obata, M. and M. Baptista (2021) Asymmetrical Agreement: Evidence from Focus-Agreement in Cabo Verdean Creole. *Proceedings of the 38th West Coast Conference on Formal Linguistics*, 315-322. Somerville, MA: Cascadilla Proceedings Project.
- Obata, M. and S. D. Epstein (2016) Eliminating Parameters from the Narrow Syntax: Rule Ordering Variation by Third Factor Underspecification. In K. Fujita and C. Boeckx (eds) *Advances in Biolinguistics: The Human Language Faculty and its Biological Basis*, 128-138. Routledge.

- Obata, M., S. D. Epstein and M. Baptista (2015) Can Crosslinguistically Variant Grammars be Formally Identical?: Third Factor Underspecification and the Possible Elimination of Parameters of UG. *Lingua* 156:1-16. Elsevier.
- Obata, M. and C. Morita (2019) Three Types of Adjectives in Japanese: A View from Cape Verdean Creole, presented at Society for Pidgin and Creole Linguistics.
- Obata, M. and C. Nakao (2021) Timing of Feature Valuation and Focus Movement in the Japanese Cleft Construction, presented at the 35th Sophia University Linguistics Society.
- Obata, M. and C. Nakao (to appear) The Nominative Constraint in the Japanese Cleft Construction: Agreement, Labeling and Timing of Feature-Valuation. *Proceedings of the Move and Agree Forum 2021*.
- Richards, M. (2008) Two kinds of variation in a Minimalist system. In Fabian Heck, Gereon Müller and Jochen Trommer (eds.), *Varieties of Competition*, 133-162
- Saito, M. (2016) (A) case for labeling: Labeling in languages without ϕ -feature agreement. *The Linguistic Review* 33:129-175.
- Saito, M. (2018) K as a Weak Head. *McGill Working Papers in Linguistics* 25.1 (Special Issue in Honour of Lisa Travis), 382-391.
- Sugimura, M. and M. Obata (2021) How labels affect morpheme realization: a study of V-V sequences, presented at the 39th English Linguistic Society of Japan.
- Takano, Y. (2015) Surprising Constituents as Unlabeled Syntactic Objects. *Nanzan Linguistics* 10, 55-73
- Takita, K. (2019) Labeling for Linearization, *The Linguistic Review*, 37(1): 75-116.

Other announcements:

Below is the list of the papers that we will discuss in this course.

- Chomsky, N. (2000) *Minimalist Inquiries: The Framework, Step by Step*, ed. by R. Martin, D. Michaels and J. Uriagereka, 89-155, MIT Press, Cambridge.
- Chomsky, N. (2005) Three factors in language design. *Linguistic Inquiry* 36: 1-22.
- Chomsky, N. (2013). Problems of projection. *Lingua* 130:33-49.
- Chomsky, N. (2015). Problems of projection: Extensions. In *Structures, strategies and beyond: Studies in honour of Adriana Belletti*, ed. Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini, 3-16. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Chomsky, N. (2017) Notes on Parameters. *Linguistic Analysis* 41: 475-480.
- Duguine, M., A. Irurtzun and C. Boeckx (2017) Linguistic Diversity and Granularity: Two Case-Studies Against Parametric Approaches. *Linguistic Analysis* 41: 391-408.
- Epstein, S. D., H. Kitahara and T. D. Seely (2014) Labeling by Minimal Search: Implications for Successive-Cyclic A-Movement and the Conception of the Postulate Phase. *Linguistic Inquiry* 45: 463-481.
- Epstein, S. D., H. Kitahara, and T. D. Seely (2015) From Aspects 'daughterless mothers' (aka delta nodes) to POP' s 'motherless' -sets (aka non-projection): a selective history of the evolution of Simplest Merge. In D. Ott and A. Gallego (eds.). *50 Years Later: Reflections on Chomsky' s Aspects*, 99-112, MITWPL.
- Epstein, S. D., H. Kitahara and T. D. Seely (2020) Unifying Labeling under Minimal Search in "Single-" and "Multiple-Specifier" Configurations. *Coyote Papers Volume 22: the conference proceedings for Arizona Linguistics Circle* 13.
- Epstein, S. D., M. Obata and T. D. Seely (2015) Is Linguistic Variation Entirely Linguistic? *Linguistic Analysis* 41: 481-516.
- Kato, T., M. Kuno, H. Narita, M. Zushi, and N. Fukui (2014) Generalized Search and Cyclic Derivation by Phase: A Preliminary Study. *Sophia Linguistica* 61: 203-220.
- Kato, T., H. Narita, H. Kasai, M. Zushi and N. Fukui (2016) On the Primitive Operations of Syntax. In Koji Fujita and Cedric Boeckx (eds.), *Advances in Biolinguistics: The Human Language Faculty and Its Biological Basis*, 29-45. Routledge.
- Obata, M. (2015) Unlabeled Syntactic Objects and their Interpretation at the interfaces. *Proceedings of the 46th North East Linguistics Society (NELS46)* 3: 63-70. GLSA Publications.
- Obata, M. (2018) Syntax and its Interface: How are Labels Determined? *Proceedings of the Korean Association of Language Sciences 2018 Winter Conference*: 3-13.
- Obata, M. and M. Baptista (2021) Asymmetrical Agreement: Evidence from Focus-Agreement in Cabo Verdean Creole. *Proceedings of the 38th West Coast Conference on Formal Linguistics*, 315-322. Somerville, MA: Cascadilla Proceedings Project.
- Obata, M. and S. D. Epstein (2016) Eliminating Parameters from the Narrow Syntax: Rule Ordering Variation by Third Factor Underspecification. In K. Fujita and C. Boeckx (eds) *Advances in Biolinguistics: The Human Language Faculty and its Biological Basis*, 128-138. Routledge.
- Obata, M., S. D. Epstein and M. Baptista (2015) Can Crosslinguistically Variant Grammars be Formally Identical?: Third Factor Underspecification and the Possible Elimination of Parameters of UG. *Lingua* 156:1-16. Elsevier.
- Obata, M. and C. Morita (2019) Three Types of Adjectives in Japanese: A View from Cape Verdean Creole, presented at Society for Pidgin and Creole Linguistics.
- Obata, M. and C. Nakao (2021) Timing of Feature Valuation and Focus Movement in the Japanese Cleft Construction, presented at the 35th Sophia University Linguistics Society.

- Obata, M. and C. Nakao (to appear) The Nominative Constraint in the Japanese Cleft Construction: Agreement, Labeling and Timing of Feature-Valuation. Proceedings of the Move and Agree Forum 2021.
- Richards, M. (2008) Two kinds of variation in a Minimalist system. In Fabian Heck, Gereon Müller and Jochen Trommer (eds.), *Varieties of Competition*, 133-162
- Saito, M. (2016) (A) case for labeling: Labeling in languages without ϕ -feature agreement. *The Linguistic Review* 33:129-175.
- Saito, M. (2018) K as a Weak Head. *McGill Working Papers in Linguistics* 25.1 (Special Issue in Honour of Lisa Travis), 382-391.
- Sugimura, M. and M. Obata (2021) How labels affect morpheme realization: a study of V-V sequences, presented at the 39th English Linguistic Society of Japan.
- Takano, Y. (2015) Surprising Constituents as Unlabeled Syntactic Objects. *Nanzan Linguistics* 10, 55-73
- Takita, K. (2019) Labeling for Linearization, *The Linguistic Review*, 37(1): 75-116.

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB55101, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：意味論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Semantics

3. 授業の目的と概要：自然言語の意味に関すると考えられる幾つかの現象を考察し、語学研究のために必要な意味論の基本的思考法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course identifies some phenomena that could reasonably be included in the domain of semantic theory and then introduces basic tools for semantic analysis that seem promising as components of a framework for doing research in natural language.

5. 学修の到達目標：1) 自然言語の意味現象を理解する。

2) 意味論の基本概念を理解する。

3) 意味論の基本的分析法が身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concept of semantics and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

このクラスコードは ioegp2r です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1) Introduction

2) Entailment (1)

3) Entailment (2)

4) Implicature (1)

5) Implicature (2)

6) Presupposition (1)

7) Presupposition (2)

8) Conversational Implicature (1)

9) Conversational Implicature (2)

10) Conversational Implicature (3)

11) Conversational Implicature (4)

12) Conversational Implicature (5)

13) Conversational Implicature (6)

14) Conversational Implicature (7)

15) Summary

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

開校時にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：文学研究科教官

コード：LB65102, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の基本概念
2. Course Title (授業題目)：Fundamental Notions of English Linguistics
3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、文献を正確に読む能力を育成するとともに、生成文法統語論の基本的な概念の理解を目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and introduce students to basic concepts of generative syntax, through intensive reading of English texts on English linguistics.
5. 学修の到達目標：①生成文法統語論の思考法や研究方法論を理解する
②批判的に英文を読む力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concepts and methodology of generative syntax and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス
第2回：導入
第3回：構成素構造(1)：階層構造と併合
第4回：構成素構造(2)：形式と意味の写像関係
第5回：構成素構造(3)：移動現象
第6回：構成素構造(4)：移動現象の分析
第7回：構成素統御(1)：構造上の卓立性
第8回：構成素統御(2)：相互指示関係
第9回：移動のコピーと解釈(1)：再帰代名詞の解釈と長距離移動
第10回：移動のコピーと解釈(2)：移動の局所性
第11回：移動のコピーと解釈(3)：動詞句内主語仮説
第12回：省略現象とゼロ構成素(1)：動詞句省略の特徴
第13回：省略現象とゼロ構成素(2)：動詞句省略の分析の問題点
第14回：省略現象とゼロ構成素(2)：動詞句省略のゼロ構成素分析
第15回：まとめとディスカッション
8. 成績評価方法：
授業における発表とディスカッションへの参加 [40%] と期末レポート [60%]
9. 教科書および参考書：
テキスト：Lohndal, Terje and Liliane Haegeman (2020) "Generative Approaches," in The Oxford Handbook of English Grammar, ed. by Bas Aarts, Jill Bowie and Gergana Popova, pp. 153-179, Oxford University Press. プリント使用。
10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し不明な点を解消するとともに、授業の中で指示する参考書等を活用して問題点について理解を深める (2 時間)。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB53404, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチ I

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach I

3. 授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学修の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションから構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)

3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)

4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)

5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)

6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)

7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)

8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)

9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)

10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)

11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)

12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)

13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)

14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

Andre Radford 著、金子義明・島越郎 (監訳) 『英語構文を分析する (上)』 開拓社

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：文学研究科教官

コード：LB63401, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチⅡ

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach Ⅱ

3. 授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学修の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションで構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1)：Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2)：Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3)：Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4)：Do-support (Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1)：Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2)：Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3)：Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4)：Constraint on movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1)：Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2)：Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3)：Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4)：Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5)：Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

Andrew Radford 著、金子義明・島越郎 (監訳) 『英語構文を分析する (下)』 開拓社

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：7 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学修の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：8 単位数：2

担当教員：文学研究科教官. 島 越郎

コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 II

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学修の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし